

オープニングは愛知県高校生フェスティバル実行委員会による群舞。「運命」「風になりたい」。私立高校と公立高校の格差をなくすために私学助成を求める運動を展開している。



「ぞうれっしゃがやってきた」。アジア太平洋戦争中、空襲が厳しくなり、暴れることを恐れて上野動物園の動物たちが薬殺された。像のトンキーも。しかし、名古屋の東山動物園では、園長と飼育員たちが必死に守り切った。戦後、東京の子どもたちが像を見たいという。東山動物園から借りることも考えたが輸送が困難。そこで、東京から名古屋へ、特別列車「ぞう列車」が企画された。子どもたちもまじえての感動的な合唱劇。レベルも高い。



実行委員のあいさつ。

安倍内閣が成立し、憲法を改悪し、集団的自衛権を認める方向を強めている。ナチスの「いつの間にか政権」発言や靖国参拝も無視できない。ブラック企業で働く労働者の問題も深刻。労働者を生産の歯車、人材としかとらえようとしない。新自由主義・競争で管理し、企業が活動しやすい国に。歴史教科書に介入し、道徳を押し付けて国家主義的な教育を推し進めようとしている。管理と競争・強制がなければ成長しない、という。学力とは何か問われている。



OECDの中では公費負担が極端に少なく、私費負担が多い。教師も多忙で過労死ラインギリギリで仕事をしている。いまこそ、平和憲法に立ち返り、子どもの権利条約を推し進める時だ。行政にさせるのではなく、自分たちが何をどうしていくのかが問われている。

## 椎名誠の講演会 「風の中の子どもたち」

「合唱のあと、ひとりで話をしなくちゃならない、しかも90分。たいしたことは考えていないので、頭に浮かんだことをぼそぼそとお話します」と始めるが、次から次へ話題豊富。準備してあるのだろうけれど、いくらでもどこからでも話せそうなほど話題豊富。

以下、お話の要約

今ほど教育の大切さ重要さを強調しなければならぬ時はない。福島のことですらそれが一層切実になった。

今日、でかけてくるときに東京駅でひと騒ぎがあった。シャワートイレは初めてという外国人が、顔に水を浴びてしまったらしい。温水シャワートイレはよその国にはない。欧米にもない。病院で痔の医療用にはあるらしいが。

もし、インドのカリカットに日本のトイレを作ったら、100人くらいの人が争ってなぐりあいになる。勝った人はそこに住み着いてしまうだろう。日本ではトイレトーパーも盗まれずにあるし、内側からカギがかかるし、壊れていれぱすぐに修理してくれる。こんなことは世界では奇跡だ。

それにしても、最近の日本の子どもたちはシャワートイレしか知らない。しゃがみ式のトイレに入っても、使い方がわからない。それが日本のいびつなところだが、異文化と出会ったときにそれが見えてくる。

世界には、あす行くトイレがない人が20～30億人いる。インドでは98%がそこらでしてしまう。路上にコンクリートを二つ並べて、丸見えのところでも用を足す。それを空き缶と素手で掃除する人たちはカーストの末端スカベンジャー。その仕事は親から子へと代々引き継がれ替えられない。

あすの水で心配する必要がない国も世界では少ない。日本とノルウェー、カナダ、ブラジルくらい。日本では、水がどこでも出てくる。しかもそれが飲める水。まさに「国民皆水道」。これも奇跡。

日本は、世界の中でも恵まれた国だ。森林の多い山国で35000本くらい川がたくさんある。しかもミネラルが豊富。

しかし、日本人はまず川をいじってダメにした。氾濫・洪水を防ぐための護岸やダム。ダムがなか



った四万十川と長良川だが、河口堰を作ってしまったためにシジミが全滅した。開門すれば生態系が戻るのだが、それがわかってしまうのを恐れて開けようとしめない。神通川では上流の工場からカドミウムを流してイタイイタイ病。水俣では有機水銀を海に垂れ流して水俣病。

日本の行政は賢くない。ヨーロッパの水は硬水。金があれば市販のミネラルウォーターを購入するが、それを飲めない人のためにつくった水道。だから水を大切に使う。スコットランドでは、草の化石ピート層を流れた水がウィスキーをいい味にするとわかっているから、川に護岸させない。源流もガードされて人は入れない。農薬も流れ込まないようにする。だからマザーウォーターで飲むウィスキーは最高。

カナダでは自然のまま放ってあるし、アマゾンではそもそもダムを作りようがない。河口の幅が日本最長河川の信濃川の長さより大きいし、河口の島は九州よりも大きいのだから。

メコン川は4200キロメートル。源流はチベット。雲南省、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムを流れる国際河川。だから下流に対して気を使う。水葬はもちろん、ゴミなどを流すことはできない。インドシナでは河辺に工場を建てる経済力がない。だから、アトピーも小児ぜんそくも、その言葉すらない。寄生虫はいる。回虫がいるとケミカル病にはならないという。一匹ずつ持つようにすればよいかも。一番体に優しい寄生虫はサナダムシ。スーパーモデルでおなかに飼っている人がいる。人間の糞から川に入り、ミジンコが食べ、サクラマスの中で成長し、それを刺身で人間が食べれば宿することができる。6.7メートルにもなると言うが、腸壁にコイルのように張り付いていて、その体全体から栄養分を吸収するという。

メコン川周辺の子どもたちは、みんな働く。遊びながら親の手伝いをしている。女の子は天秤棒で川の水を運んでいるし、男の子は、カヌーで遊びながら、銚子で50センチくらいのナマズを獲って、おかずにする。パチンコをもって山には行って、リスやキジを獲れば、それもごはんのおかずになる。

NPOが「小さい子どもを働かせるな」などと言うが、「よけいな世話だ」。

余計なお世話といえば、その子たちがはだしなのでビーチサンダルを送ろうとしたり、中には自由の女神が寒そうだからと120メートルのマフラーを作って送ったらしい。日本人はかなり阿呆だとみられている恐れがある。

富士山が世界遺産になったが、行列ができ、ごみが増え、トイレはあふれている。糞便は自分で持ち帰ってほしい。三浦雄一郎は30～40人のシェルパを連れ、ベースキャンプの3000メートルから7650メートルまで登ったが、ヘリコプターで降りてきた。1000万円かけて。

もう一つの世界遺産白神山地には経済活性化のために「スーパー林道」「春秋林道」を作ろうとした。ブナの木は水の木、立っているダムと言われる。鳥獣保護法という法律で阻止したが、そもそもそんなところに林道を作っても、9か月間は雪道になり通れない。6月から8月の3か月のためにつくるのか？阻止はしたが、世界遺産を見るホテルなど作っている…。

私はへんてこな子育てをしてきた。世田谷生まれで、公認会計士の父は厳格だった。異母兄弟が10人くらいいる家だった。母の趣味でいつもベレー帽をかぶさせられていた。それが、損害を受けて落ちぶれて千葉の幕張へ移ることになった。ベレー帽をかぶって「きみは…」などと言う私。まわりは「ニシャー」。しだいにわたしもはだしでかけまわり、海で遊ぶようになった。平泳ぎで遠泳をしているうちに胸が厚くなった。そのころの友達の中にはボクシングライト級で活躍するような者もいた。彼はその後拳銃密輸にかかわり逮捕され、脱獄してメキシコにわたり、今はコスタリカにいます。

幕張ではいかだを作って遊んだり、大腿骨骨折などの大けがもした。ある日、印旛沼の干拓の工事現場を休日に独占し、トロッコで遊んでいた。意気揚々とトロッコを独占していたが気がつくとも線路海に向かっている。トロッコはそのまま海にドボン。もちろん私たちは逃げて、事件は迷宮入り。

結婚して、武蔵野の雑木林で川口浩探検隊ごっこで親子で遊んだ。子どもたちには、川を飛んで渡れる脚力、カキの木があればかっぱらって逃げる脚力を育てた。

本を読みなどは言ったが、娘は高校で1～2番だったらしいが、どこの大学に行くとも聞いていない。アメリカにわたって、ロウスクールで勉強している。

息子も勉強せずにボクシングをやり、アメリカのサンフランシスコに渡った。孫が2人。「風太」、レッサーパンダみたいだが、次は「海」、そして「流太」にするつもりでいたが沖縄でパスポートを取ったので、「琉太」にした。

地球がもし100センチの球だったら。大気圏は1ミリ、海溝は0.9ミリ。海水は7℃。飲み水は0.5℃。水は増えない。ハートレー彗星、水惑星がぶつかって水ができたという。福島第一原発の汚染水もれ、とんでもないことだ。

自死、自殺が毎年3万人以上。変な国だ。外国では宗教が歯止めになっている。ミャンマーでは瞑想、ネパールでは五体投地。3年かけて聖地へ。その間にたくましくなる。日本の仏教はどうか。葬祭場の葬儀が幼稚化しているのではないか。

いじめ自殺があるとマスコミが犯人捜しをするが、へたをすると大人がやっつけてくれると思わせかねない。自分が自殺すれば、マスコミやおとながやっつけてくれる。「自分で死ぬなんて大馬鹿だ。逃げればよい」と伝えなければいけない。子どもの自死はおとなが命がけで防がなくてはならない。